



創立五十周年を迎えて

実行委員長 大沼 克志

昭和四十七年四月に五十公野・松浦・米倉・赤谷の各中学校が統合され、生徒数七一七名で東中学校として開校して以来、幾多の困難を乗り越えてこれたのも、先代校長先生方始め多くの諸先生の不断の努力と先輩諸兄の学校教育に関する熱意の賜物です。現在東中は、新発田市で四番目に大きな生徒を抱える大中学校になっており、深甚の謝意を表する次第であります。

一方、時代は大きく変わり、昨年一月から始まった新型コロナウイルスが世界的蔓延となり、私共の日常生活、日々の経済活動にも甚大な影響を及ぼす事態となっております、学校教育においても行事の中止や規模の縮小等、先生方のご苦勞は如何ばかりかと推察します。かつてこの東中から巣立った子供たち七千余名が、親として果敢にこの難局に立ち向かっているのを見ると、正に最も感受性の高い時期の学校教育と家庭教育の重要性を改めて直視せざるを得ないと思います。今や教育システムも「ゆとり教育」から脱却し、新しいカリキュラムになっています。生徒個人がタブレット端末を利用する時代ですが、それと並んで心の教育、情緒を育て、他人を思いやる温かい心を育むということも大きな役割で、それは学校と家庭が協力していかなければならないものです。二十一世紀という新しい支配的な物の見方や考え方に変わった社会環境に対応できる人材を育てていく事は学校だけでなく、我々大人たちの仕事でもあります。学校の先生方と一丸となって循環していく社会の中で、次の親になっていく子供たちのために私たちの義務を果たしてゆきましょう。

東中学校の益々の発展を祈念するとともに、この五十年史を意義あるものにして頂いた関係者各位に深甚の謝意を申し上げてご挨拶いたします。



校歌に込めた思いをあらためて考える

校長 新保 英博

昭和四十七年、四校が統合され新発田市立東中学校の歴史が始まりました。以来六九七五名の卒業生を輩出し、今年度五〇回目の卒業式では七〇〇〇名を超えることとなります。

この機会に校歌に込められた願いを考え、五〇年の歴史を振り返るとともに、生徒一人一人がこれからの未来をどう生きていけばよいかを考えるきっかけしたいと思います。全校朝会や行事の度に歌っている校歌ですが、特に三番の歌詞には、これまでの経験を生かし、これからの社会を生き抜くことへの願いが込められていると感じます。以下が歌詞に込められた思いです。

三番 私達の故郷は新発田藩の頃、会津領と境を接していたため、色々と歴史的事蹟が多い。それらは幾多の歴史を秘めて流れる加治川と、時の流れの中に忘れ去られてしまうかのようだ。

このように時というものは、たちまち過ぎ去っていくものだから、わたしたちはわずかな時でも惜しんで努力し、たとえ小さくともその目的を達成してその努力の成果を、校庭の桜の花の美しく咲いたのを一歩一歩見て楽しむように、「ああ、一生懸命やってよかった」と心の中で悠々と満足して、自分を褒めることのできる人間になろうではないか。

五〇年の節目に東中学校のこれからの発展を祈念するとともに、校歌に込められた思いのように、生徒一人一人が感謝の心と誇りをもってこれからの社会を生き抜いてほしいと願うご挨拶とします。